第六回　南区まちづくり懇話会　議事録（要旨）

１．日　時　　平成２８年２月３日（水）　午前１０時～

２．場　所　　南区役所３階ホール

３．出席委員

清本委員、兼田委員、辻田委員、金子委員、上田委員、福原委員、吉村委員、井村委員、平川委員、赤松委員、岡委員（副会長）、宮本委員、田中委員（会長）、島田委員

４．配布資料

⑴－「会議次第」
⑵－「委員名簿」
⑶－「【資料１】南区まちづくり評価事業報告」
⑷－「【資料２】平成 28 年度南区まちづくり推進事業一覧」
⑸－「【資料３】熊本市南区まちづくり懇話会設置要綱の改正について」
⑹－「【その他】南区まちづくり懇話会のあり方について」

５．次第

⑴　開　会
⑵　議事　①南区まちづくり評価事業について
　　②平成 28 年度南区まちづくり推進事業について
　　③熊本市南区まちづくり懇話会設置要綱の改正について
⑶　意見交換
⑷　その他
⑸　閉　会

６．議事録

会　　長　　まず、南区まちづくり評価事業について、私から説明する。

（南区まちづくり評価事業に関する説明）

Ａ 委 員　　最後のページで他の区との連携が出てくるが、どうして中央区と北区なのか。

会　　長　　現北区長は南区の元次長で、北区は区職員が「きたくぶ」を立ち上げてまちづくりに取り組んでいるので、連携できるといいと思う。また、南区と同じように合併町があるので、議論できることも多いと思う。西南戦争のつながりでも議論ができると思う。

Ｂ 委 員　　4 月から健康予防教室を町内で実施しようと考えている。理学療法士さんを講師に招いて 1 年かけて実施したいが、予算が必要なので、市役所からの補助金があれば手をあげたいと思っている。
また、校区で子ども食堂を立ち上げたい。市場に出せない野菜を農家からいただいて、1 人 100 円くらいの料金で月に１回実施したい。資金が足りないので、補助金があれば利用したい。

会　　長　　南区でも、さっそく子ども食堂を始めた方もいる。補助金も大事だが、まずは自分たちがやってみることを考えてみてはどうか。
材料は農家から分けていただくとか。料理は料理人の方につくっていただくとか。保健衛生法上、許可を受けた場所でしか料理はつくれないので、レストランから台所を提供してもらうとか。
子ども食堂については、支援が先にあるのではなくて、Ｂ委員のように「やりたい」と声を上げていただき、南区でも支援体制をつくっていくことが大事だと思う。

Ｃ 委 員　　現在、熊本市に文化協会はない。合併して 5 年目で、植木町文化協会や城南町文化協会など地域の文化協会で熊本市文化協会をつくろうという動きがあって、来年度から予算もつくという話もある。その中で、植木、城南、富合、天明などの交流会が始まっていると聞いているので、北区と南区で一緒に活動が広がればいいと思う。

会　　長　　区の連携については、北区と中央区に限って考えたわけではない。西区は地理的に近いので、農業で西区と連携してもいいと思う。
今のお話のように、先に民間で動きだして、行政が予算をつけるというのはとてもいいと思う。
小学校区を超えて、南区という意識をもって、議論していただきたい。

Ｄ 委 員　　子ども食堂とは、どんな考え方で立ち上げるのか。また、どんな子どもたちを対象にするのか。

Ｂ 委 員　　小学校でも朝食を食べない子どもが増えている。月に 1 回では何にもつながらないが、まずは町内から始めたいと思っている。
無料にすると人が増えすぎて手に負えないし、米・野菜は農家から調達できるかもしれないが、お肉は購入しないといけないので、1 回 100 円で考えている。
まずは、町内全体に呼びかけて、予約制で始めたい。

会　　長　　家庭の事情で欠食児童が増えているし、高齢者は個食が増えているので、そういうマッチングの場にもなる。
いろんな考え方があるが、できるだけ価格を安くして、子どもが笑顔になることが目的。子どもに食事を提供すれば笑顔になるのかという問題もあるが、食事をしながらいろんな悩みを相談することで地域力を高めることもできる。また、子ども食堂を地域で運営することによって、地域の結束力の強化にもつながると思う。
もともと民間で始まったが、北九州市で行政が取り組み始めてから、動きが加速している。食生活改善推進員さんには問合せも多いのではないか。

Ｄ 委 員　　食生活改善推進員という立場上、子ども食堂にどのように関わるべきか悩んでいる。食生活改善推進員は行政から補助金をもらっているので、食生活改善推進員という名前を出すと、料金の徴収はできない。

会　　長　　大西市長も子ども食堂に興味を持っているという話を聞いている。

Ｅ 委 員　　Ｂ委員からお尋ねがあった補助金の説明がないようだが。

総務企画課　長　南区で新しい事業を展開される場合は、地域コミュニティづくり支援補助金をまちづくり推進課に申請していただいて、審査に通れば、補助金を利用することはできる。

会　　長　今後は、子ども食堂に類する事業については、補助金制度ができる可能性もあるかもしれないので、そういう情報があれば提供してほしい。また、対象になるかどうかわからないが、地方創生等では、行政でなくても直接事業者から国に補助金の申請ができるようになっている。

次は、平成 28 年度南区まちづくり推進事業について、事務局から説明する。

事 務 局　　（平成 28 年度南区まちづくり推進事業について説明）

会　　長　今の説明について、ご意見・ご質問があればお願いしたい。

Ｃ 委 員　「南区だより」もできたので、実施したことを伝えるのはできていると思うが、今から実施することを伝えるのがとても弱い。ワークショップを開催する場合も、伝える方法を考えないと参加者が集まらない。小学校の「ゆっぴー安心メール」のように、アドレスを登録しておくと、自動的に南区のイベント情報が入るような仕組みができないか。また、事業を周知する場合、チラシのみのようなので、手書きでもいいので、ポスターをつくって、各校区の自治会長さんに提示をお願いしたらどうだろうか。また、城南町は行政防災無線もあるので、そちらも利用するなど、いろんな手段を考えてほしい。
今度、隈庄校区にコミュニティセンターがオープンするので、職員を募集して、試験で 3 名採用したが、全員 60 歳を超えている。全員パソコンの基本的な操作はできる方なので、ホームページの開設をお願いしたところ、「作り方を教えてもらえれば」と言われた。区役所で、ホームページの開設講座ができないだろうか。そうすれば、いろんなコミュニティセンターでホームページができて、周知につながる。

総務企画課　長　まちづくり推進事業の中で、自治会の役員さんを対象に広報誌の作り方の講座を開設したことはある。

Ｃ 委 員　その講座は私も受講して、チラシの作り方を教えてもらった。パソコンの基本操作はマスターしていて、チラシの作成などはできる方たちに、ホームページの作り方を教えてほしいと思っている。

飽田まちづくり交流室長　自治会からの要望で、2 年ほど前に会計講座を開設した。まちづくり交流室は公民館を兼ねているので、ご相談いただいて、必要性があれば、公民館主催講座としてとりあげることはできる。

会　長　地域のために頑張る方たちにとって、情報発信は基礎的なスキルなので、ぜひそういった講座を増やしていってほしい。
また、民間の力を借りて、地域の若手起業家に教えてもらうことも手立ての一つだと思う。

それでは、次の議事「熊本市南区まちづくり懇話会設置要綱の改正について」に移る。事務局から説明をお願いする。

事 務 局　（熊本市南区まちづくり懇話会設置要綱の改正について説明）

会　長　今の説明について、反対意見がなければ事務局案どおり、議事録については会長と副会長の承認により決定してよいか。

委　員　異議なし

会　長　それでは、意見交換に移る。
そもそも懇話会は何をするのかということは、私も副会長も悩んできた。もともと審議会になるという話もあったが、懇話会という形になった。私は、懇話会は楽しく議論する場であればいいと思っている。
ここで、改めて事務局から懇話会の位置づけについて説明する。

事 務 局　（懇話会の位置づけについて説明）

Ａ 委 員　　資料の中に「1 回に限り再任可能」とあるが、最長 4 年ということか。

事 務 局　　そのとおり。

会　　長　　私、副会長、Ｅ委員の 3 名は 2 期目になるので、今期で終了するが、懇話会委員を辞めても懇話会 OB・OG として南区のファンをつくっていくメンバーだと思っている。懇話会で実施する事業はないが、ここで議論したことを地域や団体に広めていっていただければと思っている。役割を形にするのは大事なので、来年度は議論の形を考え直したいと考えている。
私と副会長で考えている 3 ヶ条がある。
1 つ目は、南区全体のことについて議論する場であること。これは認めていただいていると思う。左側に座っていただいている委員のみなさんは 6 地域の代表、右側に座っていただいている委員のみなさんは各分野の代表ということで、精鋭メンバーに集まっていただいている。懇話会は、各小学校区などの個別の問題について議論する場ではない。ただし、「地域でこういう問題があるので、南区全体の問題として考えてほしい」など、きっかけとして議論するのは問題ないが、常に南区全体として考えてほしい。
2 つ目は、WIN&WIN の関係にあるということ。ここにくれば、いろんな情報が得られるとか区長の顔が見られるとか、得する懇話会であることということ。みなさんお忙しい中、懇話会に参加していただいているので、それぞれの意見を否定せずに、お互いが得する懇話会にしていきたい。
3 つ目は、楽しく議論すること。情報交換したり、アイデアを出したり、南区の原点は「いきいき南区」なので、みなさんにたくさん話していただきたいと思っている。
来年度は、運営方針を示したいと思っているが、ぜひみなさんにアイデアを出していただきたい。
たとえば、「南区だけ『わくわく懇話会』という名前にしたい。」とか。東区では部会もあるので、この形態にこだわらず、ワークショップ形式にしてもいいと思う。また、毎回「農業」とか「歴史」とかテーマを決めて、委員のみなさんに講師になっていただいて、勉強会を開いてもいいと思う。
南区のファンをつくっていくためにどうしたらいいかを話し合う

場にしたい。審議会にはない懇話会の魅力は、どんな形をとってもいいところだと思う。

Ｃ 委 員　私が住んでいるところから南区役所はとても近いので、便利はいいが、南区全体のことを議論する場なので、天明総合出張所とか別の場所に移して懇話会を開催してもいいのではないか。場所を変えることで、委員のみなさんも南区の広さを実感できると思う。また、飽田総合出張所には南区の保護司会サポートセンターができているので、そういった情報もみなさんに知っていただきたい。

会　　長　今の意見はとても良いので、ぜひ、検討したい。

Ｆ 委 員　私の周りの人たちに、これから南区にどうなってほしいか尋ねると「ちょうどいいくらいがいい」という答えが返ってくる。他の区のように人の入れ替わりも激しくないし、発展しすぎないところがいいのではないかと思っている。昨日、主任児童員の会議があったので、「年に 1～2 回、アスパル富合で各校区の子育てサークル間交流をしたい。」と提案したところ、賛同してもらったので、ぜひ南区長や南区の子育て担当職員にも参加してほしいと思っている。北区では、各校区の主任児童員と保健師さんで意見交換をしているので、南区でも実施してほしい。

区　　長　大西市長は、日頃から地域のみなさんのまちづくり活動について、本当に感謝していて、みなさんからご案内があれば参加したいという気持ちだが、市長・副市長のスケジュールは 5 分確保するのも難しい状況。しかし、私は 1～2 時間対応できるので、委員のみなさんからも地域の方々にお口添えいただいて、ぜひいろんなイベントや活動にご案内いただければと思っている。

Ｇ 委 員　先日、校区の体協で親子サッカー教室を開催したところ、寒い中区長も来ていただいた。始めての試みだったが、参加者も多く、おじいちゃんやおばあちゃんも参加されて、とても盛り上がったので、ぜひこの教室が南区全体で実施できればと思っている。
また、先日南区アジャタ大会に参加した。玉入れ競技で練習しなくてもできるし、とても盛り上がるので、もっと参加者が増えれば南区の連携につながると思う。練習を重ねて臨むスポーツと違

い、気軽に参加できるが、用具が高額なので、南区でそろえていただいて、南区の連携のため広めていければと思っている。

会　　長　　やりたいときにやりたい人ができるというのは大事。タイミングを見極めて、軽快にやっていくといいのではないか。

Ｈ 委 員　　各校区でいろんなイベントがある。先日も川尻と富合の渡し船の体験会があったが、富合からの参加者が少なかったので、もったいないと思った。今のサッカー教室の話も、開催後に聞いたので、地域のイベントをアピールする方策を、南区として考えてほしい。また、子ども対象のイベントについても子どもだけでなく、区民全体に周知してほしい。

会　　長　　イベントが増えると、調整が難しくなる。沢山集客する必要があるイベントと自分たちで楽しみたいイベントがあると思うので、告知のポータルが必要になるのではないか。どんな小さなイベントでも興味がある方はいるので、広げるのは行政の役割。そして、実施するのは地域や民間のみなさんになるのではないか。

Ｂ 委 員　　2 月 14 日に日吉校区と日吉東校区の体協主催のウォーキング大会を実施するので、区長をご案内したが、区長が出席できないため、次長が出席することになった。南区には次長もいることを宣伝したい。

副 会 長　　川尻の「春ものがたり」の中で、Ｉ委員が中心となって川尻地域の宗派の異なるお寺が連携して「お寺 de フェスタ」を実施される。六菓匠が有名な川尻では、1 人じゃできなくてもみんなで協力してやればできるのではないかという意識が形成されている。「酒蔵まつり」までの 1 月間、地域で考えて 15 年以上、「春ものがたり」を実施している。
今後は、ボランティアではなく、コミュニティビジネスを含めたところで地域が活性化していくことが大事だと思う。できれば、こういったイベントに他の地域から農産物の出店があったり、沈目大蛇など各地域の催し物があったりという話しが出てくると楽しいと思う。そういう話合いができればおもしろい。

会　　長　　熊本市全体で地域連携は難しいが、南区内で連携することはできると思う。積極的に連携して、オール南区でできる雰囲気にするのが懇話会の役割だと思っている。
会長、副会長からの提案ということで、懇話会で議論していきたいことが 2 点ある。1 つ目は、小学校区を越えたつながりの実現。2 つ目は、人材育成。現在、テーマ別の委員さんがいるが、教育はない。教育はすべてにつながることなので、地域もテーマも行政も、それぞれが自分の後継者を育てていただいて、南区では年配の方と若手が一緒に出てくるかたちにしたいと思っている。

Ｅ 委 員　　私は、テーマの中で「健康づくり」の人材育成が一番大事だと思っている。担当課から「健康づくり」に対する考えを聞かせてほしい。

保健子ども課　長　　保健子ども課は、課名から「子ども」関係だと思われるが、「地域の健康の向上」をメインにしている。南区では平成 24 年 10 月から各校区の自治協議会を中心に「健康まちづくり」への取組みをお願いしていて、21 校区のうち 19 校区でいろんな活動をしていただいている。残り 2 校区は、校区が分離して間もないため、取り組んでいただいていないが、子育て支援サークルなどは取り組んでいただいている。さきほど、Ｂ委員からイベントの紹介があったが、各校区で新たにイベントを企画されるところもあれば、もともとのイベントを活用しながら取組みを広げていかれるところもある。まずは、組織づくりを各校区にお願いしていたが、「組織をつくるだけでは何をしていくのかわからないし、モチベーションも上がらない。」というご意見をいただいたので、今後は各校区の健康課題を検討していただく予定。例えば、川尻は、高血圧が市内ワースト 1 であったため、その療法を考えていただいている。テーマを絞って、具体的な数値目標を掲げることで、モチベーションを上げていただくことも必要なので、各校区に健康課題をお知らせして、校区で検討していただく取組みをしていきたいと考えている。

次　　長　　南区では校区別に担当保健師をつけていて、地域の方々からニックネームで親しんでいただいている。また、地域のイベントの際は、「健康まちづくり」の幟旗持参で健康診断などを行うなど、地

域と区役所が一体になって「健康まちづくり」に取り組んでいる。

会　　長　　まちづくりは儲からないというイメージがあり、こういう場に商売人の方はなかなか出てこないが、南区では儲かるまちづくりを実践してもいいのではないか。行政サービスではできなくて、個人で実践するのは大きすぎるような活動を商売人の方にやっていただきたいと思っている。
アグリビジネスと連携してもいいし、熊本県の「里モン」でも県北はいろいろあるが、県南は条件的に不利。そういう意味では、南区は第6次産業化、農商工連携ができる地域なので、ぜひ若手の起業家を巻き込んだまちづくりをしてほしい。

Ｈ 委 員　　富合町はレンコンの特産地なので、地域の活性化のためにからしレンコンを作り、商工会に加入しているが、富合では奇数月の28日にフットパスイベントを行っている。その中で、からしレンコンをふるまったりして、まちづくりと商売を絡めた取組みもしている。富合町のまち歩きマップの中でも、私のからしレンコンづくり指導について掲載してもらっている。今回、熊本市から発行された「健康づくりできます店」スタンプラリーの中でも、私のお店を紹介してもらった。何かをする時に、グループの垣根を越えて、アピールすることでまちの活性化につながると思う。

会　　長　　今のお話のように、一つの目的のためじゃなくて、商売と環境保全や、子どもと年配の方がいて職業指導をするなど連携して活動し、南区が“いきいき”している姿を見せることが大事。南区にしかできないことがたくさんあるので、今日のように情報発信していただくと、いろんな方のビジネスチャンスにつながる。

Ｈ 委 員　　「健康まちづくり」の一環で雁回山の山歩きをされている。このコースは商工会のフットパスコースと同じだが、ただ山歩きをするだけでなく、私の実家の山で竹の子掘りもしていただいていて、みなさんにとても喜んでもらっている。みなさんに山に入っていただくことで、山が荒れるのも防げるし、地域と結びつきながら、いろんな活動をすることで、まちの活性化につながっている。

会　　長　　南区は、懇話会委員のみなさんと行政がフラットな関係を築けて

いると思う。みなさん、今後ともよろしくお願いしたい。